

WHO・EC共催

ACT (Access to COVID-19 Tools) アクセラレータ ファシリテーション・カウンシル会合

●第二回会合(2020年11月3日):

南ア保健大臣、ノルウェー国際開発大臣を共同議長とし、WHO事務局長、EC、日、英、西、加、中、露、韓、印、シンガポール、ベトナム、ブラジルの閣僚他が参加。我が国からは、在ジュネーブ代表部の岡庭大使が出席し、我が国がG20他の国際会議においても、ACTアクセラレータのような多国間協力を推進し、被支援国のニーズに応えるための具体的な議論を行う必要がある旨発言。また、新型コロナウイルス感染症によって、ユニバーサルヘルスカバレッジの重要性が再認識されたことも言及した。ECは2021年度予算で追加支援140億ユーロの拠出を予定していると発言。

●第三回会合(2020年12月14日):

4つの柱(ワクチン・治療・診断・保健システム)について優先順位を再確認するとともに、資金ギャップを埋めるために必要な新しい資金調達のための財政枠組みについて意見交換を実施。我が国からは、在ジュネーブ代表部の齊田公使が出席し、限られた資金を最も効果的な活動に充当し、成果を確認するため、4つの柱を越えた連携が必要とされる旨言及。12月14日時点で、今後数か月の緊急需要のための資金ギャップは43億ドルであり、2021年には追加で239億ドルが必要とされるとの試算が示された。